

災害医療テキストブック ー災害医療を中学生にも 考えてもらいたので 作りましたー

(暫定版、平成17年度)

「災害医療大系」第6巻:改訂版(予定)

国立病院機構災害医療センター

原口義座、友保洋三、西 法正

(平成18年3月 一部再修正)

平成17年3月

All rights reserved.

災害医療テキストブッカー中学生にも考えてもらいたの で一(暫定版、平成17年度)「災害医療大系」第6巻

国立病院機構災害医療センター 原口義座、友保洋三、西 法正

はじめに

みなさん「災害:さいがい」ってどう思うって、きかれたら、何を、どんなことを考えますか？

少し前の平成16年12月始めに、みなさんより少し先輩の「高校生」のみなさんにアンケートでおききました。

一番多くの答えが「地震」を思いつく、でしたが、その他にも「洪水/水害・台風・竜巻・雷・火山/噴火・大雪/なだれ」とか、「原子力災害」の答えもありました。

また災害の時に私たちに必要となるようなこととして、「助ける、救助・援助体制、助け合い」という答えもありましたし、災害の結果の「負傷者」、逃げる必要があるとしての「避難/避難所」、また災害の時に、活躍してもらうたよりになる役割としての「レスキュー、消防、ボランティア、救急車」、必要な「救援物資」、など、いろいろ多種多様でした。

この他にも、面白い？ 答えもいっぱいありますが、もし興味をお持ちでしたら、「災害医療大系」の「高校生版」を読んでくださいね。

さて、それでは、本論に入りたいと思います。

まず、ここ2～3年は、災害がしょっちゅう起こっていますね。そのため、多くの人々が、亡くなったり、大けが・後遺症を残したりしています。それだけでなく、軽い怪我・こころの傷を負った人は、その何十倍もいると思われます。

そのため災害時には、みなさんの健康を保つこと(硬い言い方で、健康危機管理ともいいますが)が大変大事になります。別名これを、「災害医療」とも呼んで、私たちは行ってきました。この「災害医療」を皆さんにもぜひ考えてもらいたいというのがこのお話のねらいです。

しかし、この「災害医療」をしっかり行うことは、そう簡単ではありません。

多くの人々の共同作業ですし、またいつも、ずーっと前から考え準備しておく必要があります。

みなさんにも、ぜひ加わっていただき、つまり、もし災害にあったら具体的に「どう、活動するか」をつねづね考えておいていただきたいと思って作りました。

最後まで、読んでもらえれば幸いです。 さて、お話は、怖い話も後ででてきますが・・・

1部. ある有名な小説の解説(私たちの解釈を加えてますが)から始めます。

2部. 次には少し怖い災害のお話・・・海での災害・事故の話が中心です。きっとみなさんも知っている話もでてきます。

3部. そして、次に災害(災害医療)のお話、ここはちょっと退屈かもしれませんが・・・でもいろいろな災害の写真がでてきますので、是非読んでください。

2006/4/5

きっと役に立つ、アンケートもありますし。

・・・ と続きます。

(平成17年3月作成、9月一部修正、平成18年3月最終修正)

目次 災害医療テキストブッカー中学生にも考えてもらいたので(暫定版、平成17年度)「災害医療大系」第6巻

国立病院機構災害医療センター 原口義座、友保洋三、西 法正

はじめに

第1部 あなたは、どうかんがえますか？ ある小説からお借りしました 001.

はじめに 001

1. あらすじ 001

2. みなさんは、どう感じましたか？ 004

補追 008

第2部一きみたちも、海の事故を少し考えてみようー原口義座 011

はじめに 013

1. 船の事故を大きく考えよう

1)船の遭難事故:怖い自然の脅威・つまり自然災害が代表でしょう、

2)船の中での病気

3)船の衝突と海賊

2. 海での災害にまつわる不思議な出来事 ロベール・ド・ラ・クロワ、竹内廸也・訳:海洋奇譚集より 017

(1)「漂流船の出会い」

(2)その2 病気など

(3)まとめると

3. タイタニック伝説 The Titanic 021

[前半:タイタニック号の紹介] 021

[後半]災害への考え方から少し、掘り下げてみると 022

①災害への準備不足・概要

②さらに、これでは、死者も増えそうな理由

③生存率からみてみます

④その他の問題点とまとめ

4. シェイクスピア、福田こう存、訳:ヴェニスの人 025

5. 洞爺丸沈没と洞爺丸台風 027

(1)この大災害の全体像

(2)船中での医療と医者

(3)せつかく、救援にいったのに、残念だと後悔した土地の人の話

(4)私たちは、何をすべきか・・・何ができるか

6. まとめ 海と災害(医療)のお話を終わります。 033

第3部:最終章 災害医療の概論: 037

はじめに:災害にあったらどうしますか？ 039

1. 災害と災害医療、災害医療の全体像 040

災害の分類

災害に必要な基礎知識の考え方

災害医療に必要な基礎知識とは

2. 災害により引き起こされた健康の問題 ー最近の実際の災害別にみた健康被害に関する特徴ー042

前半[自然災害] : 地震、つなみ、洪水 と 健康障害 042

後半[人為災害と感染症] : 原子力災害、鳥インフルエンザ 061

3. まとめとして 068

災害医療の残された問題点

これからの災害医療、ボランティア、

「災害医療大系」系統樹のご紹介

4. アンケート

終わりに:災害医療テキストブック 第6巻ー中学生に(暫定版、平成17年度)の終わりにあたってー 073

第1部 あなたは、どうかんがえますか？

ある小説からお借りしました。

原口義座(ハラグチ ヨシクラ)

はじめに

ある小説、みなさんもよくご存じのお話のを題材にしたお話です。

私たちは、災害に困っている人を助ける、つまり皆さんの住んでいるこの世界を大きな災害が、おそってきて、ひどい目にあった時に、困っている人々を元気にすることを目的として活動しています。これを災害医療といいます。

これからのお話もこの災害(医療)に、関係がある(と考える)お話です。

解説から始めます。あらすじを読んで、どう感じますか？

1. あらすじ

あらすじは、次のようです。

ある町のまん中に、主人公となるある王子の「像」が立っていました。

この王子は、前(生きていた時)には、無憂宮^{注1)}(憂いのない宮殿・サンスーシー)に住んでいたそうです。

もう一人(一匹？／一羽？)の主演は、葦(アシ)^{注2)}に恋をした小さな「ツバメ」です。

時期は、秋です。これから寒くなります。

さてツバメは、そろそろ寒くなる前に、温かいエジプトへ帰る途中のある晩、たまたま、この王子(の像)の足下にとまりました。

そこで、ツバメが目にした光景は、泣いている王子でした。

ツバメと王子との交流が始まります。

そして、ツバメは、この王子から幾つものお願いをされました。

まず始めの王子のお願いは、病気の男の子を抱えているとても貧しい「針子:はりこ、裁縫をする女のひと」に、王子の刀の柄についている「ルビー」を運ぶことでした。

「ルビー」がとても高価な宝石であることは、知っていますね。紅色・赤色の透明な宝石で、確か7月の誕生石でしたかね・・・話をもとに戻します

この「ルビー」を貰ったおかげで貧しい「針子」も「病気の子供」も大助かりですね。

「王子」は、次に貧しい屋根裏部屋に住む、寒くて、お腹がすきすぎ、字もかけないたぶん全然売れない「若い物書き:戯曲(演劇の脚本)書き」が目につきました。

話は続きます。

この若者に「王子」のサファイアでできた目の片方を一つあげて、食べ物と暖をとるための「たきぎ」を買えるようにしました。

「サファイア」も知ってますよね。透明な、青色の宝石で、よく、きれいな海・たとえば、地中海を「ブルーサファイアの海」等といいます。そういえば、メキシコ湾の海・カリブ海も、青くてきれいでしたよ。

また横道にそれたので、元に戻します。

王子は、そして、もう一つの残った片方の目のサファイアを、今度は、マッチ売りの「女の子」、実はマッチを落として困っていた女の子にあげました。

もう、王子は、目がなくなっていました。

盲目(めくら)になった「王子」は、もう町の様子がわかりません。でもがんばります。

つまり、それからは「ツバメ」に町中の不幸な人々の様子を報告させます。

そして、それらの多くの貧しい子供・人々に「王子の像」をおおっている(純金の)金箔を一枚・一枚とはがして、ツバメに持っていかせました。

やがて雪が降り、霜がおりて……、寒い、寒い冬になります。

もう、ツバメは、生きていくことができません。ついに、ツバメは、死期をむかえました。

ツバメが死んで、王子の肩から落ちたその瞬間です。

今度は、王子の像の内部・鉛でできた心臓が(きびしい霜のためもあったのでしょう)、突然、割れました。

主な話は、これで終わりでしょうが……その後も、少し続きます。

翌朝です……

この金箔がなくなってみすぼらしくなった「王子の像」とその足下に死んだ鳥「ツバメ」……これをこの町の市長と議員がみつけます。

そして、その「像」と「死んだツバメ」に悪口をいってののしりました。

あげくのはてに像を引き下ろして、その後に新しい像を立てることにしました。

その像を誰の像にするか……の口論にもなりました。みにくいですね……

最後の最後に「神様と天使」がでてきます。

神様は、天国で、小鳥は永遠に歌い続けさせ、王子は、神様をたたえるようにしよう……という事で、終わります。神様は、認めてくれたようですね。

ここまで、お読みになれば、この物語は、何かおわかりですね。

続きです……

有名な「幸福な王子(あるいは幸福の王子)」(オスカーワイルド、著1885年)、からのお話です。

(参考にさせていただいたものは、西村孝次(翻訳): 幸福な王子ーワイルド童話全集一。新潮文庫。新潮社:東京、昭和43年発行、平成16年11月5日 69刷です)

注1)無憂宮(憂いのない宮殿・サンスーシー) 同名の宮殿が、第二次世界大戦で有名となったポツダム(ドイツのベルリンの郊外にあります)にある。

注2)葦、あし、蘆、葭、よし:稲科の多年草、水辺によくみえますね。その茎ですだれを作ります。

さて、私のお話は、次に続きます。

2. みなさんは、どう感じましたか？

この物語は、名作として名高いものですね。

なにを考えましたか？いろいろあると思います。

まず、「王子」と「ツバメ」の心温まるお話ですね。オスカーワイルドが、このお話を作った時期・歴史的な背景も考える必要があるかもしれません。まだ食べ物も、また温かく過ごすこともできない人々が多かった時期でしょう。今でも、開発途上国では似ているかもしれません。

歴史の教科書ではないので、地理の教科書でもないので、ここでは余りお話しませんが。

でも、ここでは、少し違った見方から、現代風に少し頭を切り換えていただいて、災害と災害医療に関連した形で、話を進めます。

そしてみなさんも考えて下さい。

災害では、多くの人が不幸なことになります。

最悪の場合は、多くの人死にます。阪神淡路大震災では、神戸に住んでいる人を中心に6千人以上の人なくなり、スマトラ沖大地震、インド洋大津波では、何十万人が亡くなりました。

怪我をしたり、家が壊れて生活に困った人は、死んだ人の数の何倍も、何十倍もでたであろうと考えられます。

お家がなくなって、住むところがなければ、他のところに移らざるをえなくなります。

[もし、住むところがなくなったとしたら] どうしますか？

「避難所：学校の体育館とか、公民館」がまず始めに、使われることが多いですが、次に、「仮設住宅：急いで空き地などに建てられた粗末な家」、

に、移ることになりそうです。親戚とか、親しい人のところがそばにいれば、そちらにお世話になるとしても、もしなければ、長いこと慣れないところに住むことになります。

平成16年10月の新潟県中越地震でも、そうでした。多くの方々が仮設住宅に住んでいました。

平成17年3月の福岡県西方沖地震でも1年後でも多くの家族がばらばらになって生活しています。

第2部では、その様な写真の一部もお見せいたします。みなさんもテレビ・新聞・雑誌等でごらんになったことと思います。

またこの中越地震では、その年の冬には、ものすごい豪雪に見舞われました。その写真もみせます。

[不幸な人々]

災害の時の怖さがわかりましたか。

つまり、考え方によっては、この「幸せの王子」の物語よりももっともっと不幸な人々が、災害のために何人も、あるいは何万人も、出てくるわけです。

物語の本筋から、少し離れますが、こう災害のことも頭に残して、「幸福な王子」をもう一度、改めて考えるとみなさんは、どうですか？

時代も、国も、国・社会の体制も、この物語とは大きく違います。

今の日本は、普通の時は、ずいぶん恵まれていると思いますが、その辺は、あとから考えるとして・・・

みなさんは、こんな時にどんな事をしようと考えますか？

幾つか、考えられると思います。少し、例を示してみますと、

1. 災害で困った人に、直接に自分たちのできる範囲で、援助をしてあげる
2. お役所や、お金持ち、大きな企業・会社の人に働きかけて、応援をだしてもらう
3. 困って辛い思いの人に元気づけるように働きかける
4. 自分に関係ないから、ほっておく

この内、4番目は、余りほめられませんね。

もし、自分が災害にあったときには、まわりの人がそんなことでは、困りますし、

それ以上に、(見返りを期待しないで・・・ですよ)困った人を助けようという精神・humanity:親切心／博愛の精神がないと、社会人として社会を担う役割をもつべき私たちは、いけないと思います。

残りの1. 2. 3. は、それぞれに価値がありそうです。

また1. 2. 3. に各々つながりがありそうです。

内容もいろいろ具体的に考えられると思いますが、私たちの専門領域の「医療・医学」を中心に少しお話しします。

ここでは、関連するものとして、「看護学」、「薬学」、その他、いろいろな分野があって、みんな含みますが。

最後に、ここでは、困った人の話を中心にしましたが、もう少し広げて、いろいろな「生き物」も苦勞して生きていることにも目を向けることも必要かと思いますが。

2. みなさんは、どう感じましたか？(続き)

また、幾つか例をあげましょう。ここでは、みなさんは、元気な側(「幸福な王子」、「ツバメ」、「市長さんや議員さん」の側)としましょう。

「物語」では、病気の男の子を抱えているとても貧しい「針子:はりこ、裁縫をする女の人」が出てきました。

大災害・地震などのあとでは、大けがをしなくても、体力が落ちて「風邪をひきやすくなったり」、「伝染病にかかったり」しやすくなります。

上手に手助けすることは大変役立ちます(自分がかからないように注意することはもちろん、一番大事ですが)。

災害にあわれた人の中には、ご高齢の人、幼い子、妊娠した女性、ご病気をお持ちの人や障害をお持ちの人たちも、たくさんおられます。

これらの方々にも暖かい援助が必要となることは、よくわかると思います(ご家族、ご親戚にもたぶん具合の悪い人がおられるでしょうから)。

厳密には、「医療」そのものから少しずれますが、それに関連するものとして、こころのこもった栄養のある「食事」や「緊急の生活情報」があります。

災害にあわれ、「避難所」におられる多くの人たちにこれらを援助したり、知らせることも大切なことでしょう。

この応援も、多くの人たちの善意の努力が必要で、なかなか大変ですが・・・

みなさん、応援しようと思いますか？ あるいは、何か応援できそうなことが思いつきましたか？

それとも物語の「市長さんや議員さん」みたいに動きそうですか？

もし、「応援しよう」と思ったら、なにができそうですか？ なにをしたいですか？ これもなかなか、難しい場合があります。

自分の得意なこと、興味を持っていて、将来そちらの分野で打ち込みたいことがあれば、ベストでしょう。

今すぐでなくてもいいと思います。今すぐは無理でも、あせらないで、ゆっくり考えて下さい。災害は、なくなることはありません。何年後でも、何十年後でも起こりえますから・・・

もう一つ、見方を広げてお伝えしたいことがあります。災害では全てのものが被害を受けかねません。そして、その災害時の対策は、総力戦だということです。

みなが、全ての人々が、力をあわせて戦わねばなりません。

一部の人だけでは、できませんし、時々みられる「足を引っ張るようなこと」は、絶対に避けなければいけないという、難問も必ず、残ります。

2. みなさんは、どう感じましたか？(続きー2)

でも、最後の最後に強調したいことがまだあります。

人を大事にすることは、自分たちも大事にすることです。

つまり、自分たちのことを大事にする→自分たちの安全を確保する姿勢もなくしてはいけません。

よくがんばりすぎて、がんばりすぎて……具合を悪くする人もいます。

これはよくありません。

「幸福な王子」や「ツバメ」みたいに自分たちの命まで、なくしてしまうのは、がんばりすぎです。

ここまでは、もちろん論外としても、怪我をしないように注意することも大切です。

像1

王子の像

探している
ところですよ

まだ
みあたりません。
みなさん
みつけたら、
教えて下さい



像2

代わりに
始めから
はだかに
なっている
小便小僧
の写真で
がまんして
ください
(ベルギーの
首都、
ブラッセル
にあります)

像3

これも有名な「**自由
の女神**」です。
ニューヨークですね。

災害から立ち直って、
自由に活動できるように



サンスーシー宮殿
(上:遠景、下:拡大)

ドイツのベルリンの近郊、
ポツダムというまちに
あり、「無憂宮」といいます
ここは第2次世界大戦での
ポツダム宣言で有名ですね。
「サンスーシ」Sanssouciとは
「憂い(うれい)なし」という意味
のフランス語でだそうです。
でも王子は、像になってから
大変な「うれい」を感じます。



これは、余談です。この物語を読み直してみたら、今、話題の丁度始まったばかりの「名古屋万博」を思い出しました。

名古屋城の天守閣からはずした「金のしゃちほこ」を思いついたのは、私だけでしょうか？

でも万博では、人間の英知を集めて、きっと人類を／地球を、よりよい方向へ向かっていくように、「災害」での人間への被害、生き物・地球の被害を減らす方向に、進めていると期待しております。
(平成17年3月末日)

万博も無事終わり、桜の季節もまじかです。今年は大きな災害がないように。

2006/4/5

(平成18年3月)

補追:

下に引用した本にも、「幸福の王子」が掲載されている。

もちろん、あらすじはほぼ同じであるが、最後に近いところに、少女の物語がでてる。

この少女は、王子の恋人であったが、さみしい思いをしていた。

その少女へ大好きだった「バラの花」を届けている。そしてこころの安らぎがえられたことになっている。

これは、たぶん原文には、ないものであろうが、つまり、この著者は、ここでは、この「王子」を少し違う受け取り方でみているということである。

.....

「もの」だけでは、済みませんよ……他にも、あるいはもっと大事なものがありますよ……
 といいたいと、私は理解しました。

「貧しい人々を救うには黄金や宝石が必要だが」、

一方「こころ悩める人を救うには一輪のバラの花だけで十分なのだ」ということをいいたいのでしょう。

このことも、私たちも忘れないでいたいと思います。

桐生 操: 本当は恐ろしいグリム童話 II Dreadful in truth II. KKベストセラーズ: 東京、1999

災害医療テキストブック —中学生に:第1部終わり—

(暫定版、平成17年度)

国立病院機構災害医療センター

原口義座、友保洋三、西 法正

平成17年3月

All rights reserved.